

「解答例」・「出題の意図」

選抜区分	2023年度（選抜区分：一般後期） 経済学部（科目名：小論文）
<p>一般選抜の後期試験（小論文）では、井上智洋著『AI時代の新・ベーシックインカム論』（2018）から一部を抜粋して課題文とした。ベーシックインカム（BI）とは、収入の水準に抛らずに全ての人々に無条件に、最低限の生活を送るのに必要なお金を一律に給付する制度のことであり、BI導入のデメリットに関する誤解を解き、様々なメリットがあることを主張している箇所を課題文として採用した。設問1と設問2は課題文の内容を十分に理解した上で、制限された字数内で適切に答えをまとめる力を試す問題である。設問3は課題文の内容に対して批判的な見地から自分の意見を述べる力を見る問題である。</p> <p>設問1の解答例</p> <p>第1に、誰もが食いつぶされることなく、安心して暮らせるようになるという点である。最低限の生活が保障されることで、単に貧困から逃れられるだけでなく、望まない仕事や結婚生活などを続ける必要性から解放される。第2に、少子化を改善できるという点である。BIのある社会では、相手の収入が少なくても結婚して子供を産み育てることが可能になる。第3に、都市部への人口一極集中を緩和できるという点である。給付額が全国一律ならば、生活費の高い都市部よりも地方に住んだ方が豊かな暮らしを営めるので、地方から都市部への人の流れを抑制できる。第4に、人を真の意味で自由にするという点である。BIの導入によって稼ぐために働かなければならないという制約がなくなり、やりたいことを追求し続ける自由が生まれる。（338字）</p> <p>この設問に対して適切に解答するためには、本文中で述べられている4つのメリット、すなわち①誰もが食いつぶされることなく、安心して暮らせるようになる点、②少子化を改善する効果を期待できる点、③都市部への人口一極集中を緩和できる点、④人を真の意味で自由にするという点、をきちんと押さえたうえで、字数内でそれぞれのメリットを説明する必要がある。</p> <p>設問2の解答例</p> <p>1つの理由は、BIの導入は労働意欲を低下させるか否かという単純な二項対立の図式で議論しようとするからである。労働意欲が低下するかどうかは給付額に依存することが社会実験等でも確認されているが、最低限の生活が営めるならば多くの人が労働しなくなると安直に考える人が少なくない。もう1つの理由は、BIは各人の働きぶりとは関係なく同一の所得が得られる制度だと勘違いされがちだからである。その場合、どんなに働いても国から給付される所得は同じになるので、BIの導入により労働意欲が低下すると考える人が増える。（247字）</p>	

この設問に対して適切に解答するためには、本文中で述べられている 2 つの理由、すなわち、①多くの人は単純な二項対立の図式(BI の導入によって労働意欲が低下するか否か)で考えようとする、②多くの人は BI を各人の働きぶりとは関係なく同一の所得が得られる制度だという勘違いしている、をきちんと押さえたうえで、字数内でそれぞれの理由を説明する必要がある。

設問 3 の解答例

筆者は BI 導入のメリットとして、自分がやりたいことを追求し続ける自由が実質的に保障される点を挙げている。しかしその場合、社会が必要とする仕事に十分な人材が集まるか、疑問が残る。多くの人がやりたいと感じる仕事は、自己実現が可能で、収入や社会的評価が高い仕事であろう。しかし現実には、そうした条件を満たしていないが、社会的には必要な仕事が多量に存在する。例えば、老人介護の仕事は高齢化が進んだ日本において必要だが、介護士の仕事は肉体的にも精神的にも大変な割に賃金が高くない。筆者は 7 万円程度の給付で会社を辞める人は多くないと述べているが、例えば 4 人家族の妻が家計補助的に介護士をしている場合、28 万円の給付になるので、妻が介護士を辞める可能性がある。その結果、BI の導入により介護士の志望者が減少し、社会が必要とする介護サービスを確保できなくなる可能性がある。(377 字)

この設問に対して適切に解答するためには、本文中で述べられているメリットのいずれかを取り上げて、そのメリットに対する反論や批判を独自の視点から展開する必要がある。例えば解答例では、やりたいことを追求し続ける自由が保障されるというメリットを取り上げて、それが実現した場合に社会にどのような問題が生じうるかを論じている。

いずれのメリットに注目し、どのような視点から反論や批判を展開するかによって、多様な解答例を想定できるので、唯一の解答があるわけではない。ただし、本文で述べられていないメリットを勝手に想定して反論や批判を展開するような解答は、設問の趣旨に反しているので許容できない。設問の趣旨を正しく汲み取ったうえで、自分の主張を論理的かつ説得的に表現していることが評価のポイントになる。